

象は鼻が長い

「象」gajah とその「鼻」belalai, つまり「象は鼻が長い」という文についての話である。

客員教授のラムリ先生は目下日本語を勉強中だが、学生諸君の及びもつかない熱心さで復習予習を怠りなく、「象は鼻が長い」という構文を学ぶところまで進んで、先生のイブ加藤もラムリ先生を納得させる文法的説明をするのがなかなか大変な段階にまできたのはまことに喜ばしいことだ。

ところで上の「象は鼻が長い」はその日本語教科書のなかに出てきた例文だが、ラムリ先生はこれに Gajah berbelalai panjang. というインドネシア語訳を与えてノート に取った。何故に Gajah belalainya panjang. 或いはまた Gajah panjang belalainya. と書かないのだろうかというのが私の印象だったが、そのときは口を挟まなかった。

そしてその次の授業には「～は～が」ではなく「～は～は」, 「. ～は～も」が出てきた。こうなってくると、最初に「象は鼻が長い」を Gajah berbelalai panjang. としたのが不都合に感じられてきた。Gajah berbelalai panjang. は「象は長い鼻をしている」の訳として適当なインドネシア語であり、「象は鼻は」, 「象は鼻も」という風に展開するその元になる文とするには使いにくいわけである。そこで私が口を挟んでこれこれしかじかと説明してラムリ先生も初めて納得したようであったが、何故、先ず Gajah berbelalai panjang. と理解したかということ、それが正しいインドネシア語であり、Gajah belalainya panjang. はジャワ語の構文の影響で生じた言い方であるという理由からであった。そこでアドバイスをした。日本語の構文を理解するにはジャワ語で考えるのがいいのだと。

Gajah panjang belalainya. はいい、しかし Gajah belalainya panjang. はジャワ語的な構文として抵抗があるというのが統一入試の国語問題出題責任者ラムリ氏の国語感覚なのであった。書かれたもので読んだことはあるが、こうはつきりこのジャワ語の影響の問題を身近に認識したのは私としても初めての経験であり、これは貴重な経験であった。

たしかに思えばあの「は」最多記録のサンスクリット語云々の例文もジャワ語の直訳としてあるのであった。「ところでサンスクリット語は、その構造は、現代のヨーロッパ諸語と比べるならば、いささか似ているのは、それはドイツ語である」Adapun bahasa Sanskerta itu | bentuk bangunnya | kalau dibandingkan dengan bahasa-bahasa Eropa sekarang | yang agak mirip | ialah | bahasa Jerman. は完全にジャワ語の構文そのものであることはジャワ語原文と照らし合わせて確認してある。実際に著者プロボチョロコ教授の講義を受けたこともあるスラトノ氏のコメントによると、これは普通の話し言葉のジャワ語の構文であるということだ。ミナンカバウ語で、またジャワ語の影響のないインドネシア語で言うなら、「ところでサンスクリット語の構造は、現代のヨーロッパ諸語と比べるならば、ドイツ語といささか似ている」Adapun struktur bahasa Sanskerta itu | kalau dibandingkan dengan bahasa-bahasa Eropa sekarang | agak mirip dengan bahasa Jerman. だというのがミナン出身のラムリ先生の意見であった。すなわち、「サンスクリット語は、構造は云々」と二段構えになっているのを「サンスクリット語の構造は云々」と一段に整理、また「いささか似ているのは、それは何々だ」とふたつ「は」を使っているところをバツサリ「何々といささか似ている」と単純化してしまう。これがいいインドネシア語ということのようなのであるが、これでは佐々木先生の出る幕がないというような感じである。すなわち kalau dibandingkan dengan bahasa-bahasa Eropa sekarang を略して図解すると以下の如しである。

- 1. Bahasa Saskerta itu
- 1.1 bentuk bangunnya
- 1.1.1. yang agak mirip
- 1.1.1.1 ialah | bahasa Jerman.

これを次のように単純化してしまう。

- 1. Struktur bahasa Sanskerta | agak mirip dengan bahasa Jerman.

上のジャワ語式の構文が「主語」がいくつも出てきているから論理的でないという声も聞かれないわけではないが、それについては、上に 1, 1.1, 1.1.1, 1.1.1.1 と示したような位取りということを理解しない者の声だと対応しておこう。[Sg 1993.12.23]

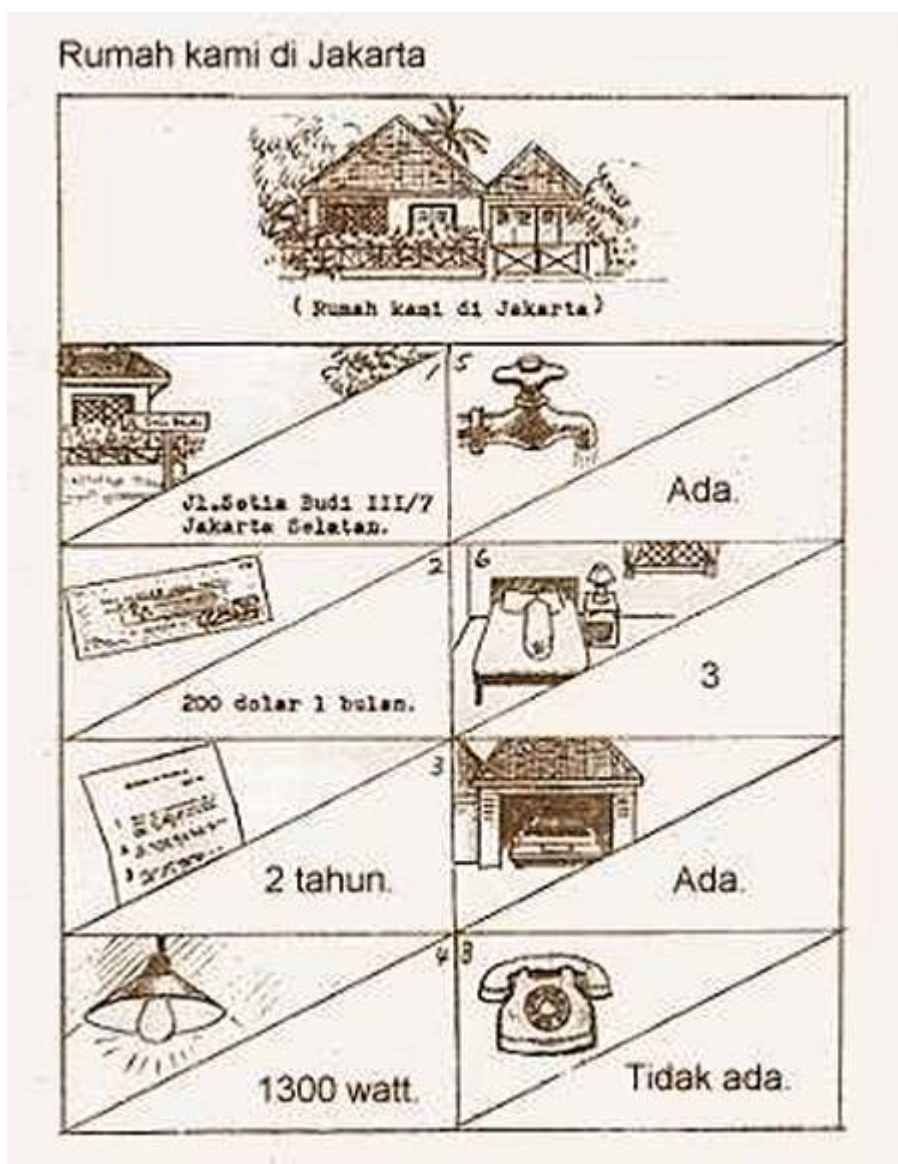
「何は何は」構文

1. Rumah Indonesia	
1.1 atapnya	merah
1.2 dindingnya	putih

インドネシア語は左の表で示した構造をそのまま文に移せる。すなわち, Rumah Indonesia, atapnya merah, dindingnya putih. 「インドネシアの家は屋根は赤く, 壁は白い」という文である。

注文の品	
太郎	ざるそば
次郎	親子丼

日本語も, 左の表を「ご注文は, 太郎さんはざるそば, 次郎さんは親子丼ですね」などと, そのまま文章化できる。その確認を返す時は, 「ハイ, 太郎はざるそばの大盛りです」などと言い, 「注文の品」を繰り返すことはない。[Sg 2.14.06]



これは、ジャカルタで2年間（1971/4～1973/3）契約していた家を思い出して描いた教材用イラストである。

「何は何は」の文を作る練習用なので、1. alamatnya, 2. sewanya, 3. kontraknya, 4. listriknya, 5. keran（カラン、蛇口）nya（air ledingnya なら tidak ada), 6. kamarnya, 7. garasinya, 8. teleponnya で練習をどうぞ。1はこうなる。

1. Rumah kami di Jakarta, alamatnya Jl Setiabudi III no.7,
Jakarta Selatan.

昨日電気のブレーカー，すなわち MCB（日常生活でもふつうにこう言うらしい）が落ちる話を書いたので，このイラストの 1300 ワットを思い出した。[Sg 2.9.2010]

「何は何が」構文

Anak saya **banyak**.

Banyak yang dibeli di pasar.

上の2文は，*banyak* means 'be much, many' であると教えてやれば，英語話者にもなんら問題ない。しかし，



Saya **banyak** anak.

Saya **banyak** uang.

上のようになると，「～は～が」構文を持つ日本人には何でもなくても，彼らにとっては大問題。そこで Wolff, *Beginning Indonesian* はこんな風に，イディオムとして扱って学習者に呑み込ませようとしている。

Banyak also occurs in idioms composed of *banyak* followed by certain nouns which have the meaning 'have many [nouns]'. Three common words which occur preceded by *banyak* in this meaning are: *waktu*, *anak*, *uang*. (p.135)

しかし、勿論、特別なイディオムとかではなく、次と同じ構文、但しずっとシンプルな例である。[Sg 3.21.06]

Teman-teman seusia saya **sudah banyak** yang tidak ada lagi. But that's life. (私信から)

この構文、日本人向けの「何は何が」構文で、覚えやすいだろう。上では、書き手が高齢なので、**sudah banyak** に続くのが **yang tidak ada lagi** なんてことになっているが、若い方は、**yang** 以下を「結婚している、子供がいる」などにお直し下さい。 [Sg 2.14.06]

ヤニはもう三人よ

Yani sudah tiga anaknya.

「～は～が構文」三題である。

その1)

Yani, anaknya Bu Sis yang paling besar, yang setahun lebih muda dari kamu, sudah tiga anaknya. Kamu? Punya pacar saja belum! (Reda Gaudiamo, "Anak Ibu")

上の文から枝葉を払えば、次ぎになる。

Yani sudah tiga anaknya. (ヤニちゃんはまだ子供が三人よ)

なお、Punya pacar saja belum! (彼氏だっていないんだから) は、belum

punya の belum を取り出して、それだけで述語を構成させた構文である。

その2)

Istrinya sekarang menderita alergi dan agak menurun kondisi kesehatannya setelah mengikuti program ini.

("Bayi Tabung sebagai Alternatif untuk Hamil", Kompas)

これを見て、「夫人はいま健康状態がやや低下している」という「何は何か構文」を作る練習をどうぞ。盛りつけをちょっと工夫するだけみたいなものだから、すらすら出来るだろう。すなわち、

Isterinya sekarang **agak menurun** kondisi kesehatannya.

その3)

父さんはお前が誰かに攫われたかと心配した。

Bapak takut kamu **ada yang menculik**.

(Titie Said, Selamat Tinggal Jeanette. hal.257)

作文問題として考えると、この日本語からインドネシア語 kamu ada yang menculik. を書くのは、学生にはほとんど無理だろう。つまり難易度は非常に高い。

しかし、インドネシア語を日本語にする和訳問題だったら難易度はそう高いものでもない。自然な日本語を考える学生なら、充分、上のインドネシア語を「誰かにさらわれた」と訳せるだろう。[Sg 8.26.06]

私の荷物はなかった

Barang-barang saya tidak ada yang hilang.

下記は、スラバヤ・ジャカルタを結ぶ特急 Argo Bromo で網棚に置いたラップトップの盗難に遭った B 氏の投稿 [ylki-1] HATI-HATI NAIK KERETA AGRO BROMO の一節。Yayasan Lembaga Konsumen Indonesia のメーリングリストからである。

Kereta sampai di Stasiun Jatinegara kurang lebih pukul 05.00, dan saya turun di Stasiun tersebut dengan membawa barang-barang saya yang kelihatannya tidak ada yang hilang, karena ketika saya ambil dari bagasi, posisi barang-barang bawaan saya tidak ada yang berubah dan tidak ada yang terbuka resletingnya. Tetapi.....ini yang membuat saya shock, ketika sampai di rumah tas Lap-Top saya buka, ternyata isinya (Komputer Lap Top merk Toshiba) sudah berubah menjadi 4 (empat) buah botol Air Mineral merk Java 500 ml. Terus terang saya hampir tidak percaya bahwa isi tas saya sudah berubah, karena ketika saya bawa tas tersebut dari kereta, beratnya sama dengan semula.

キャリーケースの中のパソコンを抜き取り、代わりにミネラル・ウォーター500ml 4本を入れておく。これで重量は変わらず、網棚から下ろすときにも、被害者は事態に気付かないという巧妙な手口である。さて、ada yang ... (何々であるものがある) の構文が、上に3例見えている。

- barang-barang saya yang kelihatannya **tidak ada** yang hilang (外から見る限り何ひとつ無くなっているものがない私の荷物)
- Posisi barang-barang bawaan saya **tidak ada** yang berubah (荷物

を置いた位置もどれも変わっているものがない)

- **tidak ada yang terbuka resletingnya.** (チャックが開いているものもなかった)

日本語でも「ないものがある」とか「ないものがない」とかよく言う。さすれば、我々がこの (tidak) ada yang 構文の達者な使い手であってもいい筈なのだが、実際は何故かそうでもないのが不思議なところである。
[Sg 3.9.99]

彼女の勝利は多くなかった

Kemenangannya tak banyak yg menduga.

米アカデミー賞受賞式の記事 "Acara Penyerahan Oscar Dipenuhi Banyak Kejutan" (Liputan6.com, 06/03/2006) によると、男優賞については大方の見方は一致していたが、しかし、主演女優賞の Reese Witherspoon については：

Kemenangannya sebagai aktris terbaik tak banyak yang menduga.

Kemenangannya: 彼女の勝利は.

tak banyak: 多くなかった. (誰が)

yang menduga: 予想した者が.

この構文を使って次のような文も作ることが出来る。

Teman-teman saya tak banyak yang menduga kemenangannya.

Teman-teman saya: 私の友達たちは.

tak banyak: 多くなかった. (誰が)

yang menduga kemenangannya: 彼女の勝利を予想した者が.

[Sg 3.6.06]

語彙カード時代のカードから

T : me—a

Sungai itu memalukan kecilnya bila dibanding dengan Bengawan Solo dan Kali Madiun. (Umar Kayam, Priyayi)

Sungai itu: その川は,

memalukan: 恥ずかしい (何が)

kecilnya: 小ささが.

これは, 次の b) と同じ構文である. ここはまあ「恥ずかしい程小さい」と読めばよかろう.

a) Dokter mengkhawatirkan keadaan pasien itu.

b) Pasien itu **mengkhawatirkan** keadaannya.

T : me—a は当時使っていた分類コードだが, 他には, 例えば以下のようなものも使った. 太字=述語である.

T:N—yg

Elisa sih **hanya kota-kota yang punya lapangan terbang saja** yang dia kenal. (Nh.Dini, Keberangkatan)

T:△—yg

Lebih-lebih anak perempuan **jarang sekali** yang bersekolah. (Nusa dan Bangsa)

T:ada—yg

Jumlah mereka **tidak ada** yang tahu secara pasti. (Tempo 19 Mei 90)

上のコードの 'T' は topik, thema の T のつもりで、「～は」相当の部分を示している。上の三つの例文、このTをひっこめると、次のようになるだろう。

N—yg: Hanya kota-kota yang punya lapangan terbang saja yang Elisa kenal.

△—yg: Jarang sekali anak perempuan yang bersekolah.

ada—yg: Tidak ada yang tahu secara pasti jumlah mereka.

[Sg 11.3.07]

インドネシア語の文の核は述語

以下の用例はいずれも Ajip Rosidi, *Hidup Tanpa Ijazah* (2008) からである。

Karangan Pak Sjafruddin lebih sulit lagi mencarinya. (HTI, 639)

Karangan Pak Sjafruddin: S 氏の書いた物は
lebih sulit lagi: 更にもっと困難であった (何が)
mencarinya: それを手に入れることが

Yang menjadi masalah adalah penerbitnya. Penerbit-penerbit di Perancis tidak ada yang tahu tentang sastra Indonesia, karena itu mereka tidak tertarik untuk menerbitkan buku terjemahannya. (HTI, 439)

Penerbit-penerbit di Perancis : フランスの出版社は
tidak ada: ない (何が)
yang tahu tentang sastra Indonesia : インドネシア文学について
知るものが.

Kantor itu dahulu aku yang membeli atas desakan Kang Rachmat juga. Alasannya, Pustaka Jaya perlu gudang. (HTI, 935)


Kantor itu: その事務所は
dahulu : 以前
aku : 私だった (何が)
yang membeli atas desakan Kang Rachmat juga.: KR 氏の勧めで購入したのが.

この aku yang ... は, フランス語なら c'est moi qui ... と読まれると思うが, 英語では I am the one who ... と読まれるようである.

Alasannya : 理由は
Pustaka Jaya : PJ は

perlu : 必要である (何が)

gudang : 倉庫が.

 このイラストは、ここで扱ったような「ガ」相当補語が現れる構文の説明に使うことが多いのだが、*Saya membaca buku.* (私は本を読む) の構文も、勿論これである。[Sg 3.2.08]

「インドネシア語の文の核は述語」なのであるから、それで用が足りるという場面だったら、*Lebih sulit lagi., Tidak ada., Aku., Perlu* という述語だけ、つまり●だけの文も現れる。s-v が揃わないとメジャーな文と見なされない英語の場合と違って、それらは、最も単純な構造をもつ文でこそあれ、決してカタコトではない。[Sg 4.18.09]

ドリアンです。

例えば *Durian.* を、これは何ですかの問いに対する答えとして「ドリアンです」と訳すことは何でもあるまい。しかしこれが少し複雑になると、話は別のよう。



二年の教材『インドネシア語読解の基礎』の中に、*Manusia-manusia yang meskipun berbeda warna kulit atau bangsa, agama maupun kebudayaan, pada dasarnya sama.* という例題がある。*Durian.* という一語文より遥かに長く入り組んでいるかもしれないが、*Durian.* と同じく「何々である」という構文。しかし、教室でこれに当たった学生は、その「何々である」という構文を知らぬが如く、何回訳し直させても、以下のようなになってしまう。

- 1) 人間は肌の色や民族, 宗教や文化が違っていても, 基本的に同じである。
- 2) 肌の色や民族, 宗教や文化が違っていても人間も, 基本的に同じである。

前者では yang を無視, 後者では meskipun を無視。どうしてもその yang と meskipun の二つを同時に読み込んで「肌の色や民族, 宗教や文化が違っていても, 基本的には同じ人間だ」にならない。ともかく「何々である」という構文であると, これを捉えることが出来なかった。

この『インドネシア語読解の基礎』は, もともとは日本語を与えてインドネシア語を書かせる『作文の基礎』。それを『読解の基礎』に仕立て直して, インドネシア語を与えて日本語に直す教材にしたものである。その結果, なんだか易しくなってしまった問題が多い中で, この「何々である」と読む構文の例題はあべこべに難易度が上がったらしい。[Sg 5.18.97]